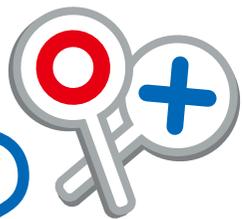


あなたは そう思う？ 思わない？



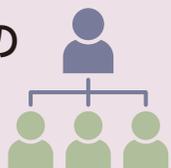
あなたの思い込みをチェック！



来客時のお茶や
食事の準備・片づけは
女性の役割だ



お寺や社会などでの
役職者は、男性が
つとめるべきだ



男性は家庭
よりも仕事を
優先するべきだ



チェックのポイントは？

これはジェンダーに関する思い込みです。思い込みは、気づかぬうちにその人が持っている多様な可能性を発揮する機会を減らし、その人の未来を奪ってしまいます。性別に関する思い込みは、偏見を生み出し人権侵害(差別)につながります。差別とはその人の尊厳を傷つけることです。その人自身が持つ個性を無視して性別で固定化してしまうより、それぞれの力を活かせれば、お寺もそこに携わる人ももっと豊かに輝けるでしょう。

詳しくは
こちらから



編集・発行

編集：ジェンダー平等推進委員会
発行：浄土真宗本願寺派社会部
ジェンダー平等推進課

誰もが
尊重される
社会へ

浄土真宗本願寺派は
ジェンダー平等を推進します。

ジェンダー ってなに



「ジェンダー」とは、社会・文化の中で作られてきた性差(性のあり方)のことをいいます。私たちはこれまで、女と男という性別の枠組みを当たり前として、「女の子は優しく、男の子はたくましく」など、性別によって望ましいあり方があるように考えたり、「女性は家庭、男性は仕事」など性別と役割を結び付けたりしてきました。

このような固定観念は慣習化され、知らず知らずのうちに、誰かの生きづらさを生んでしまいます。こうした思い込みを見つめなおし、互いの違いを認め合い、すべての人びとが尊重される社会を作ること、それが「ジェンダー平等」です。

お念仏の教えとジェンダー平等

なぜ今、ジェンダー平等にとりくむのか

1 宗祖親鸞聖人

親鸞聖人は、お念仏のみ教えのもとに集う人びとを「とも同朋」「御同行」と呼び、社会的身分や老若男女の別なく互いにお念仏を喜ぶ仲間として共に生き抜かれました。

2 宗門の現実

しかし、長い歴史のなかで宗門はジェンダー不平等をつくりだし、今もなお解消されずにいます。それは寺院においても同様の状況があります。



3 とりくむ理由

多くの人にとって居心地のよいお寺にするためには、いろんな立場の人の意見を取り入れ、参加しやすくすることが大切です。そのためには、“今までこうしてきた”ということについても確かめつつ、性別と結びついた役割に縛られない柔軟な取り組みが、これからは求められるでしょう。



4 めざす社会

ジェンダーの不平等に気づくこと、そして一人ひとりが言葉や行動を変えていくこと。それが自他ともに心豊かに生きることでできる社会、私たちのめざす御同朋の社会の実現につながります。ジェンダーは、時代のなかで作られたものだからこそ、私たちの行動によって変えていくことは可能なのです。

